

第6号 20円

開館1周年記念号

昭和41年9月25日

内容

開館一周年を祝う.....	2
大学共同セミナー.....	4
第五回委員会議の.....	6
企画委員改選の.....	7
美しい話の.....	8
一般寄付金の.....	8
利用状況.....	9

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行

財団法人 大学セミナー・ハウス

《所在地》 市下 柚木
 東京都八王子市 42-4041-2
 電話 0426-42-4041-2

《東京事務所》
 東京都中央区日本橋本町3の3
 三井銀行本町支店ビル3階
 電話 東京 (270) 4431
 振替口座 東京 74590番

編集・発行人 飯田宗一郎
 製作 中央公論事業出版

ソローはコンコードの近郊ウォールデン湖畔のエマーソンの所有地内に自分で小屋を建て、自然の懷に包まれて二年あまり暮らし、彼の求めてやまない「簡素な生活と高尚な思索」を実践に移したのである。このときの生活記録が、のちに出版された『森の生活

カントの流れを汲む超絶主義の思想は、一九世紀前半アメリカ、とくにニューイングランド地方で盛んであったが、その中心人物の一人にコンコード(マサチューセツ州)に居を構えたエマーソンがあつた。
 端的にいって、彼は何よりもまず個性の發揮をひとびとに求めた。コンコードの哲人と呼ばれた彼を囲む一群の思想家文筆家は、説くところそれぞれ多少の差異はあつても、個に徹し個を完成することを人生の最大事とした点は同じであつた。
 貧しい家庭に育つた(ヘンリー・デービッド・ソローもコンコード・グループの一人であつた。彼がハーバード大学卒業後最初に得た学校教師の課業も、エマーソンの兄の家の家庭教師の地位も、技術や職業の枠に拘束されることのゆえをもつて、長くつづけることができず、家業の鉛筆製造を手伝つたり、自然に親しむ機会が多い土地測量の臨時雇ひになつたりして、生計の資を得ていたが、やがて文章をもつて世に立つことを決意した。

「ウォールデン」である。
 『森の生活』はいまではアメリカの古典の一つとして親しまれてゐる。わが国でも、戦前のことはさておき、戦後にも角川文庫や岩波文庫に翻訳が収められてゐるので、手にしたひともし少なくないと思う。私自身は大正末年大学生であつたとき以来、愛読書としてゐる。いくつかの章句がただちに思ひ出されるが、その一つ、森の生活のさなかにソローの肩に雀がとまつたことの感想として、これがどんな肩書よりも榮譽であるところである。



慶応義塾大学教授 高村象平

大学セミナー・ハウスの効用

感じたという個所などは、世相のけわしいこの頃のわれわれに共感をともよおさせると思ふのであるが、どうであらうか。
 多摩丘陵の美しい自然の中に設けられた大学セミナー・ハウスを、塾生とともに訪れること、私は今回で三回目であるが、開館当初とうって変わつて、今日では構内の道路も整備され、ユニットハウス内部の調度も整い、ユニットハウスやセミナー室の配置の妙味がはつきり印象づけられるようになってゐる。利用者の数は次第に

増加してゐる由、設置者の労苦もこの現実事態の招来によつて報われたといふべく、慶賀にたえないところである。
 このニュースの毎号にセミナーハウスの存在意義について説かれてゐるので、いまさら私がつけ加えることはないが、一つだけ述べてみたい。
 私がここに数日間塾生と起居を共にするたびに思ひ起こすのは、簡素な生活と高尚な思索を實行した前記ソローのことである。ここでの共同研究や討議も、利用者

にとつてもとより重要な課業である。専攻分野は異なつても、真理追求にいそむ若人の清らかなまなざしに包まれるのは、何ともいへぬ喜びである。が、それらにもまして私は、かなたの丘の上に浮ぶ白い雲の往來をみることもなしに眺めながら無想の時間をもつことが、セミナー・ハウスに止宿する際に得られる大きな効用であると思つてゐる。

喧騒の市中の巷に起居するわれわれにとつて、思索に適した場所は日ごとに狭められてゆく。同時に、無想のひとつときをもつことも、現実には次第に許されなくなつてゐる。だが、思索にふけり、またそれとは反対の、無想の時間を享受することは、人間の生活にとつてきわめて必要なことではないか。もちろんいまの時代と社会との間にあつて、無想でゐることは、実際には不可能なことであらう。無想はかえつて思索に通ぜざるをえないであらう。しかし問題は、何にもとらわれない思索そのものが大切なことである。この目的なき思索が、既往において不詳であつた問題解決の糸口をつかむこともあり、新しい着想を得ることもある点である。そして自分がこの世に生きてゐるのだという自覚をするのも、この無想のときにおいてである。

ソローは四七歳の若さで世を去つた。短い生涯であつた。しかし『森の生活』に述べてゐるように、一日は一年の縮図であつて、朝は春、正午は夏、午後は秋、夜は冬であるという見方であつたれば、四七年も長い生涯であつたといふべく、その著作が長くひとびとに愛読され、この著者に親しむ必要さ、簡素な生活の妙味、そして個性をみがく気高い思索の重要さを後進者にこゝと改めて気づかせてゐる点からいへば、不滅の生命をもつたともいへよう。

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

在館の間に寄稿を求められ、思ひついたままを書きつらねた。
 (昭和四一年九月八日)

開館一周年を祝う



オープン・ハウスのにぎわい

三笠宮様もご臨席

さわやかなオープン・ハウス

こと数回、そして泊り込みで会場をつくり、料理をつくるといった努力奉仕がセミナー・ハウスでなければ生まれにくいさわやかな雰囲気をかもし出し、楽しいオープン・ハウスが丘の上に展開し、意義深い「大学の理念と現実」という共同セミナーを実現させた。

【運営委員会】

- 委員長 早稲田大学教授 川原栄峰氏
- 委員 東京大学助教授 西村秀夫氏

▼昭和四一年七月三日

多彩なプログラム・祝辞・音楽・手品など

開館記念日は五日であるが、オープン・ハウスにしたため家族づれでおいでになる方の便宜を図るとともに、一般学生のためにも考え三日の日曜に繰り上げた。この一年間に利用された先生方と学生諸君を主にしたが、大学関係者、一般社会人も招待した。形式的なことばかりで、なごやかなパーティで一周年を祝うことにしたのでプログラムも自ら楽しимもので、学生の演じる種目選ばれた。
入場券は学生三〇〇円、社会人五〇〇円、子ども二〇〇円とし、

- 日本女子大学助教授 一番ヶ瀬康子氏
- 上智大学教授 鈴木 皇氏
- 学生委員

- 飯尾右一(上智大)、藤本絃(慶大)、海老沢克之(東京工大)、安藤まゆみ(東京女子大)、犬塚博(電気通信大)、宮川俊彦(武蔵工大)、久保育子(日本女子大)、伊藤修(慶大)、平井典子(東京女子大)、新田久子(日本女子大)、芳山邦弘(早大)

食べもの、飲みものが入場券の金額を超過した場合は、自分で計算して備えつけの料金を箱に入れるという良心的支払法を採用した。

日本女子大と東京女子大を主力にした食事係は前日から泊り込みで、すし、サンドイッチ、おにぎり、あんみつなどをつくり、男子組は、ビール、アイスクリームのテントを丘の上とサービスタワー屋上に張った。
東大室内楽団がモーツァルト・クラリネット五重奏を演奏、武蔵工大生がプロ同然の手品を披露。

開館一年の成果に思う

—私の体験—

早稲田大学教授
川原 栄峰



ていましたから、手ばなしで「楽しい」といったようなものではなかったのですが。

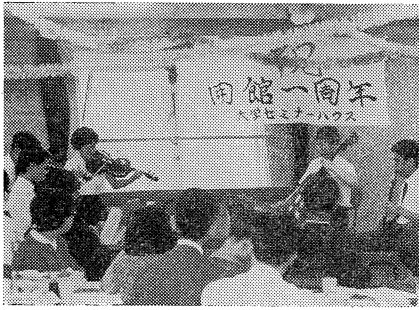
学生が教授と起居をともにし、同じ屋根の下で同じかまのめしを食べ、ひざをまじえて学問や人生を語る——さらには、よその大学の学生に接して、ひとのふりみてわがふりなおす——共同セミナーのこの理念、これは誰でもがいうように、そして誰が考えても、まことに結構なことです。頭で考えているかぎり、この結構なことにはちのつけようはありません。私自身もながねんそう考えてきました。しかし実際にこれを運営し、学生たちと行動をともにしながら、いわば第一線で汗を流してみると、この結構な趣旨を本当の姿で生かすのは並たいていなことではないと痛感せざるをえません。セミナーの最中、私はにえ切らぬ一物を胸に秘めてあのラウンジで空をにらむことがよくありました。本を読むだけが勉強ではない、旅行したり友と語ったり、クラブ活動したり、セミナーに参加したり、いろいろなきことが一つ一つみな勉強なのだ——ということ、これはほんにそのとおりです。ただ大切なのは、これはひごろ本ばかり読んでいる学生に向かって先生がいうべき言葉であって、ひごろたいして本を読まない学生がみずからいうべき言葉ではない、という事です。このへんの微妙な消息をみんなどう受け取っている

大学セミナー・ハウスが開館してすでに丸一年たちました。共同セミナーを中心にしていろいろな催しが行なわれ、大学生に対する日本のおとなの善意が花咲き実を結んでいるといった感じで、まことにさわやかです。こうしていよいよ動きはじめてみると、これを企画し実現して下さった人々に対して、以前にもまして御礼を申しあげねばという気持がします。

つぎつぎに集まられる方々の中
には昨年の開館式以来一年振りの
お顔もあつて、昨年は折り悪しく
雨天のため、まだ舗装されない本
館周辺は泥んこで板を渡して歩い
てもらおうといういかにも草創の情
景の中で開館式を行なったので、
道路も舗装され、数百本の植木が
あちこちに植えられた今日の状態
と比較されて、セミナー・ハウスの
成長を喜んで下さった。

本館前に張られた受付のテント
には女子学生がならび、お客さん
を歓迎した。開場早くも東京教育
大の三輪学長がこられ、構内を一
巡される頃、東大の松田智雄教
授、一橋大田上稜治教授などが、
そして正午近い頃セミナー・ハウ
スの生みの親ともいふべき上代た
の先生、少しくおかれて茅誠司館長
がこられた頃は、会場の大食堂は
満員のお客さんで、談笑の中にも

東大室内管弦楽団による五重奏



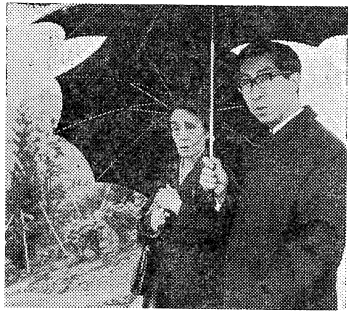
楽しい光景を呈しはじめていた。

川原運営委員長のほか日本女子
大の山本和代先生、東京女子大生
安藤まゆみ、日本女子大生久保育
子の両嬢など四人が司会者席につ
き、一二時三〇分川原委員長の開
会のことばによって一周年記念祝
賀パティーは開幕された。まず東
京工大の永松昭男君の指揮によつ
て会衆がいくつかの民謡を歌い会
場の空気がなごやいだところで、
館長の茅誠司先生が一年間でこん

なにも立派になったことを喜ば
れ、ことに学生諸君が多数利用さ
れていることを大学教育のために
喜ばしい限りであると挨拶を述べ
られた。つぎに企画委員長の松田
教授が一年間の成果を顧みて今後
の活動に期待して奨励された。

ついで当日の呼び物である東大
オーケストラの中から選ばれてき
た五人の学生によるクラリネット
五重奏が演奏され、しばらく会衆
の耳をうばった。

その頃三笠宮殿下がご到着、一
同の拍手による歓迎の中を会場の
最前列の御席におつきになった。
来賓祝辞の第一番は前日本女子
大学長の上代先生で、大学教育に
ついての深い関心と長い経験か
ら、セミナー・ハウスの設立の意
義を述べられ、これと同じような
形式の大学が現在アメリカの大学
間に計画されていることを述べ、
大学間の協力の必要と将来の方向
などについて語られ、終りに今日
のこの記念に郷里島根の彼岸さく



構内を視察される三笠宮様と上代先生

らと白雲木の苗木を植えたので
持参されたことを述べ、セミナ
ー・ハウスに対する愛情の一端を
披露された。

第二番の祝辞として開館記念セ
ミナーの全体講義をされて以来、
いつも快く学生のためにご奉仕下
され、セミナー・ハウスにとつて
は最大の理解者のお一人である山
内恭彦先生が指名された。

深い学識、豊かな人生観、厚い
学生愛から山内先生のユーモアが
飛び出し、聴衆の共鳴をよんだ。

学生側の祝辞は上智大学の外国
人学生ボンネット君の巧みな日本
語による感想とお国自慢の歌、東
京女子大の平井典子さんのセミナ
ー・ハウスを称える、学生らしい
学問の場への願いが述べられた。

武蔵工大生の手品の名演技に爆
笑と讃嘆を繰り返しつつ、終りに
もう一度永松君の指揮によって歌
いかつ歌い、飯田専務理事の感謝
を込めた閉会のことばをもって二
時三〇分閉会。

のかと気がかりです。ごくあたり
まえのことですが、大学生の場
合、ひごらの熱心な勉強が中心に
なり、それと密接につながって
いてこそクラブ活動もセミナーもま
すます有意義になるはずのものが
しょう。そうでないとセミナーで
せつかくひざをまじえて話をして
も、すべてを自分の常識へと引き
おろすだけで、自分をそこへと引
きあげるものが困難になります。

セミナーを運営しながら、なんと
かい工夫はないものかと考え込
むのは、いつもこの点でした
交通が便利になり、電話網がす
みずみにまでゆきわたりました。

そのために大学生たるもの腰を落
ち着けて本を読むということがむ
ずかしくなりました。のろうべき
は文明です。席あたたまるとま
なく、クラブやコンピュータ
ソングや、さては中学・高校のクラ
ソ会にまで東奔西走。たしかに、
読書と思索とよりもその方が楽し
いのですから、じっと坐って本を
読めと自分にいつて聞かせても、

若い心がそわそわするのは無理も
ありません。セミナーのたびに書
き残していつて下さる例のアンケ
ートには多く感激的な賛辞がした
ためられています。私はそれをす
なおに喜びながら読みます。そし
て、共同セミナーもやはり大学生
たちの東奔西走の一つであるわけ
ではなくて、むしろそのような東
奔西走を反省する一つの機会にな
っている場合もあるのを知って大

いに嬉しく思います。なにしろお
おぜいのすぐれた若ものを集めて
おきながら、坊っちゃん嬢ちゃん
がじゃれているみたいなことにな
っては、集まった人々にも、はた
また天下国家に対しても申しわけ
がたたぬと、そんな野暮なことを
ひそかに考えているものですか
ら。

ユニットハウスというのは快適
です。学生ひとりひとりに書物を
どっさり持たせて一週間あのユニ
ットハウスに閉じこめる。三度の
食事以外にはお互いに一切ノーコ
メント。一週間目に先生の前で読
書と思索との成果を報告して批評
してもらおう。——こんな一種の
まん会がやれないものだろうか。

そうしたら運営委員は不要、指導
教授も最後の一日だけで済み、学
生はがまん強くなり、読書の楽し
さを解すようになる。そうした
ら東京へ帰る電車の中で、きつ
と、東京の町が少し低く感じられ
て痛快だろう。——これはセミナ
ー・ハウスのサービスマンの上
からあのすばらしい景色にみと
れながら私が思い描いた夢のプラ
ンです。

それはさておき、いつも新鮮な
問題で私に反省をさせて下さった
学生の皆さんと、いつもにこやか
に温くもてなして下さったセミナ
ー・ハウスの職員の方々に感謝
し、丸一年を経た八王子のあのク
サビがますます堅固に大地に食い
入ってゆくことを期待します。

大学共同セミナー



第五回大学共同セミナー

主題 ■ 英国のキリスト教文学

〔昭和四一年五月二〇・二一・二二日〕

【全体講義】

東京大学名誉教授 斎藤 勇氏

「キリスト教的文学」

一、文学と宗教との関係

二、文学としての聖書

三、ミルトン

四、テニソンとブラウニング

五、T・S・エリオット

【セクション別指導者】

A ウィリアム・ブレイクにおける人間主義

人文学部

学習院大学教授

小泉 一郎氏

B 『失楽園』における神と悪魔と人間

国際基督教大学講師

斎藤 和明氏

C 一九三〇年代のT・S・エリオット

共立女子短期大学助教授

児玉 久雄氏

D 文学と宗教

東京大学助教授

川西 進氏

〔ゲスト〕

日本学士院会員

土居 光知氏

〔映写〕

“Vision of William Blake”

〔英国大使館文化部提供・児玉久雄氏解説〕

〔運営委員会〕

委員長

東京大学助教授 西村 秀夫氏

委員

東京大学助教授 杉山 好氏

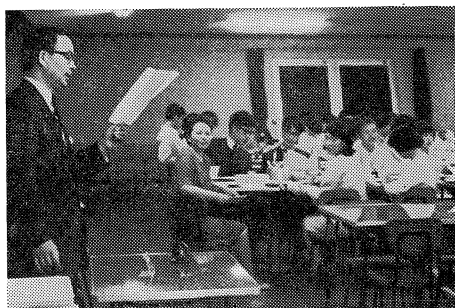
日本女子大学家政学部

山本 和代氏

計六一名(うち女子四八名)

津田塾大(一九)、日本女子大(二二)、東京女子大(五)、国

際基督教大(五)、慶大(四)、立大(三)、学習院大(二)、青山学院大(二)、東大、東京医科歯科大、都立大、早大、武蔵工大、明治学院大、東京教育大、玉川大、国際商科大各一名



杉山好先生の指導で食後にうたう



斎藤勇先生

土居光知先生をゲストに

開館第二年度にはいった本年度最初の共同セミナーは、純文学を取り上げてほしいというかねての要望もあってのもので、英文学界の巨峰斎藤勇博士にお願ひすることとし、その快諾を得て、青葉の美しい自然の中で、英詩に関する興味深い講義を聴くことができた。全体講義を担当された斎藤先生をはじめセクションを指導された小泉、斎藤、児玉、川西の四先生も終始高い学問的態度でセミナーを指導され、英文学研究の絶好の機会を提供することができた。今回のセミナーには児玉先生のスライド解説や杉山先生の合唱指

導などもあり、また三日目が日曜だったので有志の出席で、セミナー開始前の三〇分間キリスト教の礼拝を行ない、斎藤勇先生の感話を聴いた。講義以外のこうした行事により、英文学とイギリスの国民性を学びながら、キリスト教の知識をも深めたことであろう。さらにこのセミナーに光彩を加えたのは斎藤先生と親交の深い日本学士院会員土居光知先生を二二日の午餐にゲストとしてお迎えし、食後ラウンジで、外国文学と日本文学の関係についてのお話をきくことができたことである。そして斎藤勇先生は講義の結論として、左記の『失楽園』の一節をあげられた。

Greatly instructed I shall hence depart,
Greatly in peace of thought, and have my fill
Of knowledge, what this vessel can contain;
Beyond which was my folly to aspire.
Henceforth I learn that to obey is best.
And love with fear the only God, to walk
As in his presence, ever to observe
His providence, and on him sole depend,
Merciful over all his works, with good
Still overcoming evil, and by small
Accomplishing great things, by things deemed weak
Subverting worldly strong, and worldly wise
By simply meek; that suffering for truth's sake
Is fortitude to highest victory,
And to the faithful death the gate of life;
Taught this by his example whom I now
Acknowledge my Redeemer ever blest.

(Paradise Lost, XII. 557-73)

第六回 大学共同セミナー

開館一周年記念

主題 ■ 大学の理念と現実

〔昭和四一年七月三・四・五日〕

【全体講義】

東京工業大学教授

永井 道雄氏

東京大学教授 前田 陽一氏

【セクション別指導者】

A 大学の自治と学生の自治

東京大学助教授 西村 秀夫氏

国際基督教大学教授 都留 春夫氏

B 一般教育と専門教育

慶応大学教授 齋藤幸一郎氏

アジア経済研究所員 小林 文男氏

C 大学と社会

東京教育大学教授 馬場 四郎氏

〔ゲスト〕

東京女子大学教授 玉虫 文一氏

上智大学教授 鈴木 皇氏

〔ゲスト〕

東京女子大学教授

国際基督教大学教授

上智大学教授

慶応大学教授

アジア経済研究所員

小林 文男氏

東京教育大学教授

馬場 四郎氏

〔ゲスト〕

東京女子大学教授

上智大学教授

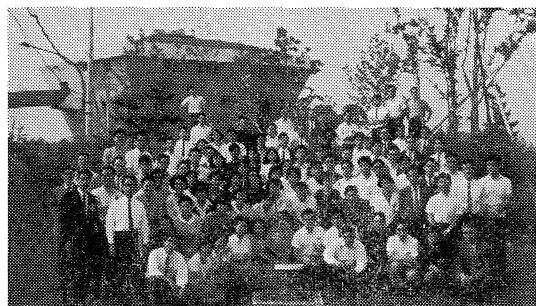
鈴木 皇氏

〔ゲスト〕

東京女子大学教授

国際基督教大学教授

上智大学教授



開館一周年記念セミナー

【参加学生】

計九五名(うち女子三五名)

日本女子大(一八)、早大(一五)、

上智大(一〇)、東京女子大(八)、

都立大(六)、東大(五)、東京

工大(五)、武蔵工大(五)、成

蹊大(三)、学習院大(三)、東

京医科歯科大(二)、東京農工大

(二)、慶大(二)、中大(二)、

神奈川大(二)、東京教育大、電

通大、法大、立大、日大、共立

女子大、国際商科大各一名

◇

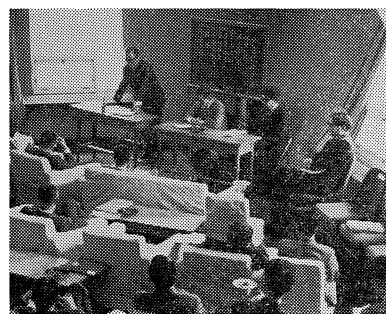
日本の大学は相ついで発生する

学生騒動に苦悩している。一方で

は社会的需要に応えながら学生人

口は年を追うて増加の一途をたど

っている。いたずらに膨脹する大
学は、大学本来の機能を發揮する
ことができず、こうした現象が大
学の危機とすらいわれている。
「大学とは何か」を問われている
のが現在の大学であるとすれば、
そこに学ぶ学生たちが大学の在り
方について討議しようとするのは
当然である。
今春以来有志の学生が開館一周年
記念事業の一つとして、大学問
題のセミナーを開くことを計画さ
れたのはこのような事情によるの
である。しかも記念セミナーとい
うからには、これまで参加した学
生がセミナー・ハウスに感謝する
ことを含めて、学生自身の企画
によって開催し、これを運営した
いというのが有志の学生諸君の希
望であった。企画委員会はこのよ
うな学生側の積極的な要望を歓迎
しながらも、一周年記念事業とし
てセミナーを立派に行なうために
は、委員会も参加し、協力して企
画し運営することが望ましい体制
であるということになり、運営委
員会は両者をもって構成した。
学生委員の熱意によって計画は
推進され、永井、前田両教授をは
じめ、東大、教育大、ICU、慶
大、上智大等の教授多数をセクシ
ョン指導者として迎えることがで
きたため、現下の大学問題を背景
にして、大学の理念という根本問
題にまで追究することができた。
永井教授は朝日ジャーナルの募
集した大学問題の懸賞論文を材料



比較教育学会会場



韓国の女子学生たち

として、日本の大学の中に存在す
るいくつかの問題から、大胆に大
学改革の方法を提案され、前田教
授は一クラスの人数が多くなった
現在の大学では一般教育がマスブ
ロになって、専門教育がかえって
人数が少ないという現象を指摘さ
れ、学生には迷ったときに相談の
ため訪れられるような先生がほし
いので、一般教育ではそのような
場をつくりたいものであると人間

●比較教育学会開催

平塚益徳会長も出席

第二回総会をかねて、比較教育
学会が五月二七・二八両日、全国
から約五〇名の教育学者が参加し
て開催され、緊急の課題である入
試問題について熱心な研究討議が
行なわれた。小規模な学会にはセ
ミナー・ハウスが好適の場所であ
ることが証明された。

●日本ユネスコ協会連盟による

日韓両国学生の交歓

日本ユネスコ協会連盟の招待に
より韓国学生二二名が八月三〇
日、セミナー・ハウスを訪れ、昼
食をした後、数大学の混成になる
日本人学生約四〇名とともにラウ
ンジで約一時間アジアの問題につ
いて討議し、その後約一時間お茶
をのみながら交歓した。

第五回財団法人評議員会——昭和四一年六月二九日

二年目にはいったセミナー・ハウス

新年度予算と新事業計画を承認

昭和四〇年度決算

三、二九一、七〇九円の赤字

昭和四一年度予算

二、〇〇〇、〇〇〇円の収入不足

利用料金の値上げは
行なわず

予算、決算、事業計画などの重要案件を審議した第五回財団法人評議員会は、神田の学士会館において評議員四九名のうち四〇名の出席を得て開催された。

昭和四〇年度決算は合計一四、七七八、一〇三円のうち、三、二九一、七〇九円の赤字となり、やむなく運用財産の繰入れを行ない収支のバランスをとった。

昭和四一年度予算においても収入において二〇〇万円の不足を生じ、借入金をもって当てなければ収支予算が成立しないけれど、会員校加入の希望があるところもあれば、さらに五校以内の加入は承認することとし、一方、利用状況も第二年度にはいり、さらに増加することが予想されるので収入事情も好転するであろうとの見通しをつけ、とにかく本年度は利用料金を値上げしないで、運営する方

針を決定した。

セミナー・ハウスを効果的に利用するためには料金が安いほどよいのであって、財団としては、あらゆる努力を払って他に収入の増加を図り、学生の奨学に便宜を提供したい。事実各大学のゼミナール教育はセミナー・ハウス開設以来非常に好成績をあげており、東工大、早大などには、毎週土、日を年間または半年を通じて予約されているゼミがある。

新しく会員校を迎える

東京外国語大学
共立女子大学

かねて加盟の希望を申し込まれていた東京外国語大学、共立女子大学を昭和四一年度から会員校に迎えることを全員一致をもって承認した。東京外語大は国立において共立女子大は私学においてそれぞれ独自の学風により著名な大学であり、この二校が会員校として加入されたので、会員校は二七大学となった。

国立 一〇大学 三〇学部
公立 一大学 五学部

私立 一六大学 六七学部
合計 二七大学 一〇二学部

講堂兼体育館新築計画
明春五千万円募金開始

日本自転車振興会より
一、二五〇万円の寄付

昨年七月開館以来一年の経験からセミナー・ハウスの教育活動を推進するためには、現在の施設を若干充実強化する必要があることがわかった。

第一は、一学科一学部単位の新入生オリエンテーションとか学科・学部の全学集会、大学の主催する全学交歓会または研修会のごとく二〇〇名から三〇〇名単位の集会を開くために、また中規模の学会、学術発表会などを開くためにも二〇〇人から三〇〇人収容の講堂が必要である。

また学生諸君のアンケートによっても、ここに数日間滞在すると軽いスポーツぐらいはしたくなるらしい。付近の丘を散歩すればいいようなものであるが、バドミントン、卓球、バレーボール程度のスポーツを楽しむことは、青年ばかりでなく学者たちにも単に身体運動ばかりでなく相互の友情交歓にも必要であることがわかったので、体育館を兼ねた講堂を新築する。

第二はゼミの単位が必ずしも二〇〇名でなく、七名とか九名といったものもあって、一つのゼミがセミナーの教室を使用するとすれば、現在の七つのゼミナール室では、七つのゼミでわずかに八〇〜一〇〇名という場合もあって、宿泊施設は二〇〇人収容力があっても、ゼミナール室がないために、宿泊施設をフルに使用できないということが判明したので、講堂に付設して二つのゼミナール室を増築する。

第三は大学共同セミナーとか特別な行事を行なう度に職員が泊まらなければならないが、その宿直室が本館に一人一室だけなので不便を感じていた。この機会に一室を専務理事専用の宿直室に、一室を職員用宿直室にすることとし、ゼミナール室の地下一階を利用して二室をつくる。

◎セミナー回数くらべ (紙上表彰)

セミナー・ハウス
利用校ベスト5

昭和四一年度にはいってから利用状況は急速にのびているが、四・五・六・七・八の五ヵ月の利用状況から、セミナーを実施した回

- 第一位 早稲田大学 (二七回)
- 第二位 東京大学 (二四回)
- 第三位 慶応義塾大学 (二三回)
- 第四位 東京工業大学 (二二回)
- 第五位 東京都立大学 (二二回)

夏休みによく勉強した先生とそのグループ

A 回数2回以上

早稲田大学	川原栄峰先生	4
白梅学園短大	田中未来先生	4
早稲田大学	村松林太郎先生	2
成蹊大学	川口浩先生	2
法政大学	霜島甲一先生	2
東京工業大学	益子正巳先生	2
日本女子大学	一番ヶ瀬康子先生	2
上智大学	鈴木皇先生	2

B 滞在期間5日以上のセミナー

東京女子大学	遠藤真二先生	8
東京大学	一丸節夫先生	7
日本大学法学部	法職課程	7
慶応義塾大学	高村象平先生	5
明治学院大学	森藤一男先生	5

・ご連絡 この秋に来られた時には、ごほうびに3時のお茶にお招きいたします。

企画委員会の委員改選

留任三名、新任一五名

旧委員会に感謝

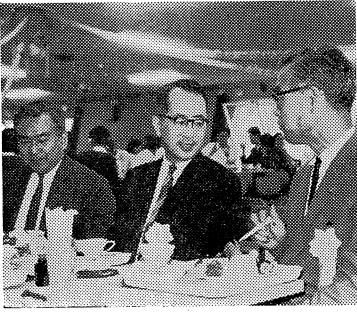
セミナー・ハウスの方向づけに貢献

昭和三十七年一月二〇日、第一回企画委員会を開催、手塚富雄先生を委員長に推し、実に委員会を開くこと二〇回、建設計画を推進させてきたのであるが、二期連続して委員の責任を果たしたから、

第三期には昭和三十七年度は、特別な先生を除いて新人と交替しようという気運が高まり、それぞれの大学にご推薦を仰ぎ、松田、田上、岡田の三先生以外は新任者となった。

昭和四一年五月一七日に本年度最初の委員会を開催し、初顔合わせを行なった、席上松田東大教授を委員長に、田上一橋大教授を副委員長に推挙し、幹事は従来どお

オープン・ハウスで会食する茅館長、松田委員長、田上副委員長



り西村秀夫氏をわずらわすことに全員賛成され、ここに新しい委員会の構成が決まった。新機軸による活動が展開されるよう期待したい。

改選による企画委員会の新構成

【委員長】

東京大学教授（経済史）

松田 智雄氏

【副委員長】

一橋大学教授（憲法・行政法）

田上 穰治氏

【委員】

東京教育大学教授（社会学）

岡田 謙氏

日本女子大学助教授

（社会福祉学） 一番ヶ瀬康子氏

早稲田大学教授（哲学）

川原 栄峰氏

東京大学教授（民法）

加藤 一郎氏

東大教養学部教授（独語）

小城 正雄氏

中央大学教授（国際私法）

桑田 三郎氏

東京教育大学教授（物理学）

三宅 和夫氏

慶応大学教授（教育学）

村井 実氏

立教大学教授（支那哲学）

野口 定男氏

東京女子大学助教授（数学）

根岸 愛子氏

東京大学助教授（英文学）

小津 次郎氏

都立大学助教授（西洋史）

太田 秀通氏

上智大学教授（物理学）

鈴木 皇氏

東京工業大学教授（機械工学）

谷口 修氏

早稲田大学教授（物理学）

富山小太郎氏

明治大学教授（憲法・行政法）

和田 英夫氏

【幹事】

東大教養学部助教授（学生指導）

西村 秀夫氏

●●●●●●●●●● 二つの国際セミナー

外人の利用に好評

だ。

▽主催 アメリカ・フレンズ奉仕団

▽期間 七月九日～二三日

▽主題 民族主義と国際理解

▽セミナー部長 東北大学教授

石田英一郎氏

▽参加学生

日本人学生二〇名

外国人学生二〇名

外国人はアメリカ、ケニア、フィリピン、ホンコン、スペイン、韓国、台湾、ニュージーランド、インド、タイ、ベトナムなどの諸

国で講義も討議も用語は英語で、文字どおり国際的雰囲気をかもし

出し、ほぼ男女半数であるため

あって、真面目なセミナーである

とともに楽しい生活であったよう

世話役にはアメリカ・フレンズ奉仕団の日本駐在員バーネット夫妻が当たり、その他同志社大学の

榊原教授、国際文化会館の鶴見部長、拓大の原助教授などが起居を

共にして小グループに分かれ指導された。

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

国際学生セミナーの人たちの友情の公園づくり

聖書翻訳セミナー

▽主催 聖書協会世界連盟

▽期間 八月一日～九月三日

▽目的 すべての民族が聖書を

読み、かつ正しく理解する

ことができるため、すぐれた

翻訳者を養成するための

理論と實際を研究する。

▽セミナー日本部会長

同志社大学教授 高橋 虔氏

▽参加者

海外——ホンコン、シンガ

ポール、フィリピン、韓

国、中華民国、タイ、ベト

ナム、計二七名

教授陣にはアメリカ・イギリス

および日本人学者一八名が参加。

会期中地元村民による先祖伝来の

はやし太鼓と盆踊りなどが夏の夕

べを楽しませた。

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者

レクリエーションに興じる外国の学者





美しい話

地球儀と 東洋文庫の寄贈

セミナー・ハウスの開館はいつになるだろうかといった話題が出はじめた昭和三十九年秋頃の企画委員会の席上で、ある先生が「地球儀はセミナー・ハウスにぜひ備えたいですね」といわれたことがある。そしてその時がついにきたのである。

下中記念財団の主催で昭和四一年八月二日から三日間下中教育奨励賞受賞者九名を集めた心身障害児教育セミナーを行なったとき、平凡社社長下中邦彦氏もおいでになった。同氏はセミナー・ハウスにこれら、勉強にきている学生たちに接し、セミナー・ハウスの活動に非常な関心を示された。その結果、地球儀と東洋文庫七三冊一揃、雑誌「太陽」一九六三年七月の創刊号よりこの九月号まで三九冊一揃を寄贈下さる由を申し出られた。

平凡社からは、昨年開館に際し大百科事典をはじめ、同社発行の事典類一四冊という多数の図書を寄贈していただいたわけで、セミナー・ハウス図書室にとっては最大の後援者である。

印刷による 漱石の掛軸

夏目漱石は、明治二九年四月、杉山中学校から熊本第五高等学校に赴任し、明治三六年、第一高等学校に転任するまでの間、同校において教鞭をとっていた。この祝辞は、明治三〇年、第五高等学校の創立一〇周年記念式典が挙行された際、漱石が教員総代として述べたもので、漱石自身の起案、浄書になるものといわれ、原本は熊本大学が所蔵している。

熊本大学がそれを印刷に付して配られたのであるが、それを入手された元セミナー・ハウス会計課長中川章氏が、一周年記念オープン・ハウスの席上で寄贈された。

セミナー室や 食堂に時計一〇個

利用する学生たちのアンケートの中に、時計があったらよいという希望があるので、いづれ何かの方法でこの要望を実現したいと思っていたところ、オープン・ハウス委員の学生たちの共感をよび、当日の食べもの、飲みものを自分

一般寄付金

(植樹費、時計・スライド購入費など)

- 九〇〇〇 第三回大学共同セミナー参加者殿
- 一、二〇〇 同成人学生記念寄付
- 五〇〇 米田 祐康殿 学生
- 二〇〇 石水 照雄殿 愛媛大
- 二〇〇 浜 英彦殿 厚生省
- 二、〇〇〇 阿部 ゼミ殿 東京工大
- 四〇〇 西村 秀夫殿 東大
- 一、〇〇〇 守永 ゼミ殿 青山学院大
- 五、一〇〇 藤山政治大学院卒業生殿
- 五、〇〇〇 藤山政治大学院殿
- 一〇〇 玖野 卓也殿 学生
- 三、〇〇〇 佐藤 豪殿 学生
- 一、〇〇〇 安藤 常世殿 学生
- 一、一〇〇 日大商学部経営学研究会殿
- 六、〇九五 第四回大学共同セミナー参加者殿
- 一、〇〇〇 吉沢 英子殿 日本女子大
- 三、一三七 日大法学部一同殿
- 一〇、〇〇〇 第七回B・Y・F大会実行委員会殿
- 一、〇〇〇 杉山 ゼミ殿 日大
- 一、〇〇〇 細谷 千博殿 一橋大
- 一、〇〇〇 小竹 ゼミ殿 慶大
- 三、〇〇〇 比較金融史研究会殿
- 一、四〇〇 八王子市役所殿
- 一、〇〇〇 S.F.C. Stear.殿
- 四〇〇 浅 井殿 体育社会学会
- 二、〇三六 島袋 嘉昌殿 立川短期大
- 一、〇〇〇 西洋近代史ゼミ殿
- 一、〇〇〇 国連学連東京都本部役員殿
- 三、〇〇〇 秀村 欣二殿 東大
- 五、〇〇〇 大原 芳雄殿
- 九、二六五 開館一周年記念セミナー参加者殿
- 一、〇〇〇 小山 英子殿 東京女子大
- 三、〇〇〇 神奈川大工学部生産工学研究部殿

寄贈図書

- 三、〇〇〇 円谷プロダクション殿
- 二、〇〇〇 募金箱
- 五、〇〇〇 アメリカフレンズ奉仕団殿
- 六、九四五 募金箱
- 一、〇〇〇 山本 ゼミ殿 都立大
- 五、〇〇〇 順天堂大学管理者セミナー殿
- 二、〇〇〇 セミナー・ハウス職員殿
- 一五、〇〇〇 東大天文学研究会殿
- 一、〇〇〇 飯田宗一郎殿 大学セミナー・ハウス
- 一、〇〇〇 小出 詞子殿 国際基督教大
- 二、四〇一 募金箱
- 八、一四四 日本YWCA全国高校カンファレンス殿
- 一、〇〇〇 久家 和子殿 福岡学院
- 一、〇〇〇 原田 明則殿 東大
- 一、〇〇〇 川原 ゆり殿 お茶の水女子大
- 一、〇〇〇 鈴木 皇殿 上智大
- 八、四〇〇 募金箱
- 乳牛の科学
- 大学でいかに学ぶか
- 記号論序説
- ヴェーバー社会学における思想と経済
- 社会科学の方法
- 人権の思想
- 大学の散歩道
- 科学と人生
- 東京大学教育学部紀要
- ウェーバーとマルクス
- 福沢諭吉全集二一巻
- 生きる
- 現代自由論
- 公害と住民
- 公害 (東大公開講座)
- 公害 (都市問題講座)
- トインビー歴史の研究
- 梅津元昌殿
- 増田四郎殿
- 瀬在良男殿
- 大塚久雄殿
- 松田智雄殿
- 杉山 好殿
- 山内恭彦殿
- 安藤英治殿
- 慶応大学殿
- 加藤諱三殿
- 加藤一郎殿
- 佐藤喜一郎殿

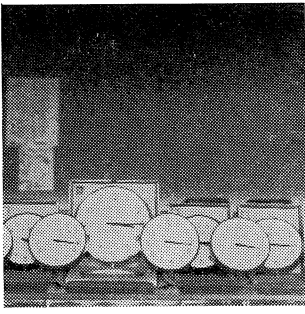
たちがつくり、その資金をかき出し、出そうということになった。また当日のお客さんからも時計のための寄付をいただくことにして、構内数カ所に募金箱を設けた。そのいづれもが大きな成果をあげ、本館一階、食堂、サービス・センター、セミナー室七室計一〇カ所にすばらしい時計がかかった。

ちなみに食堂の純益が一万三、〇九三円、お客さんの寄付金が二万〇、八八四円、募金箱が七、四三六円、合計四万一、四一三円。一〇個の時計購入費三万三、三二〇円を差し引いた残金がスライドを買う基金となった。

スライド映写機

「スライドはできませんか」という問合わせのある度に「まだありませんから、機械をお持ちにならなければ」と答えなければならなかったが、その不便がやっと解決した。これも開館一周年記念事業か

オープン・ハウス記念の時計



ら生まれた余分の収穫である。

オープン・ハウスで時計の資金はつくったが、スライドを求めるには、少々資金が足りないのので、その機会を待っていたところ、この夏に開催された順天堂大学の幹部職員研修会と日本YWCA全国大会からの金一封が与えられ、時計の残金八、〇〇〇円を加え、二万〇、二四〇円の上等な映写機を購入することができた。

重要美術、科学研究、文芸、名園旅行その他自慢のスライドがあったらお貸し下さい。夕食後などに、みんな集まってスライドを見るのも楽しいことであろう。

ユニット宿舎に

ブラッシュ

伯東株式会社幹部研修会が八月二七・二八の両日、当ハウスで行なわれた。高山社長以下一三名が参加され、夜遅くまで討議され、そして翌日は全員平山城址までハイキングというプログラムであった。貿易実務の研究もさることながら、社員の心を一つにするという人間関係をつくる上にも大きな効果があったであろうが、当ハウスにとってもユニット宿舎とゲスト・ルーム各室に備え付けられるだけの洋服ブラッシュが同社長より贈呈され、かねがねブラッシュがほしいと願っていたことでもあり、予期しない贈りものを得ただき、有難かった。

利用状況



◆4月

慶応義塾大学助教

石坂 巖氏

パプテスト全国青年協議会

青山学院大学助教

岩元 岬氏

法政大学講師

岡田 裕之氏

東京大学助教

杉山 好氏

体育社会学専門分科会研究会

肥後 和夫氏

成蹊大学助教

杉山 逸男氏

日本大学助教

田中 章義氏

東京経済大学講師

白井 常氏

東京女子大学助教

岡本 哲治氏

東京都立大学助教

石原 忠男氏

中央大学助教

田端 光美氏

日本女子大学助手

田端 光美氏

国際基督教大学助教

福地 崇生氏

第三回大学共同セミナーEセクション

市倉 宏裕氏

第三回大学共同セミナーFセクション

今井 淳氏

国際基督教大学春期修養会

野村 浩一氏

立教大学助教

成蹊大学講師

福田 喜三氏

東京教育大学助教

馬場 四郎氏

一橋大学助教

細谷 千博氏

東京教育大学助教

関口 武氏

第三回大学共同セミナーAセクション

鈴木 皇氏

東京工業大学助教

永井 道雄氏

南山大学助教

松野 賢吾氏

中央大学助教

岩波 一寛氏

近世史研究会

久保 正幡氏

早稲田大学助教

井上 勇氏

早稲田大学助教

吉阪 隆正氏

青山学院大学基督教青年会

東京カウンセリング・スクール

横山 定雄氏

東京農工大学助教

金子 六郎氏

明治大学助教

寺田 由永氏

慶応義塾大学助教

高村 象平氏

順天堂大学寮指導者研修会

村井 清氏

白梅学園短期大学助教

田中 未来氏

◆5月

中央大学助教

樺 俊雄氏

慶応義塾大学助教

千住 鎮雄氏

日本基督教団富士見町教会青年会

東京教育大学助教

丹下 保夫氏

東京大学助教

戸塚 元吉氏

日東紡績課長研修会

成蹊大学助教

巽 博一氏

武蔵工業大学助教

広瀬 鎌二氏

慶応義塾大学助教

村井 実氏

慶応義塾大学講師

井上 担氏

専修大学助教

菅井 準一氏

キリスト者青年平和セミナー

高橋 三郎氏

東京教育大学助教

細田 友雄氏

日本建築学生会議全国代議員会

中央大学助教

吉川 道夫氏

慶応義塾大学助教

内山 正熊氏

明治学院大学助教

三和 治氏

全日本キリスト者平和会議

M・ニューメラー氏

八王子市役所課長研修会

川名吉衛門氏

東京都立大学助教

村井 清氏

東京家政学院助教

酒井 敏氏

東京家政学院講師

切替 一郎氏

東京大学助教

馬場啓之助氏

一橋大学助教

渡辺 彰氏

慶応義塾大学講師

阿部 修治氏

吉田 裕氏

明治学院大学助教

秋田 成就氏

法政大学講師

成就氏

日本比較教育学会

平塚 益徳氏

中央大学助教

榎木 澄和氏

千葉大学助教

鶴見 卓三氏

東京学芸大学助教

萩原 竜夫氏

順天堂大学助教

白井 常氏

東京工業大学助教

益子 正巳氏

東京女子大学助教

白井 常氏

文部省留學生課

八王子市役所管理職研究会

早稲田大学英会話研修会

川喜多二郎氏

一橋大学教授 高橋 泰蔵氏

早稲田大学教授 村松林太郎氏

早稲田大学教授 松井 源吾氏

早稲田大学 川原 栄峰氏

東京工業大学 秀村 欣二氏

東京工業大学 末武 国松氏

早稲田大学 奉仕活動セミナー

早稲田大学 永山 武夫氏

早稲田大学 山崎 純夫氏

武蔵工業大学 鳥居雅四郎氏

早稲田大学 小泉 四郎氏

信州大学 岡 博夫氏

芝浦工業大学 石黒 哲郎氏

早稲田大学 益子 正巳氏

東京工業大学 吉野 利男氏

早稲田大学 山本三三三氏

国際経済商学生協会のセミナー

早稲田大学 石田 武雄氏

早稲田大学 京極 純一氏

東京工業大学 大西 清氏

早稲田大学 村山英太郎氏

板垣 与一氏

早稲田大学 竹沢啓一郎氏

早稲田大学 小畑 耕郎氏

早稲田大学 川名吉衛門氏

早稲田大学 久松 潜一氏

早稲田大学 江口 裕子氏

早稲田大学 河村 望氏

早稲田大学 田中 実氏

早稲田大学 中村 良一氏

早稲田大学 守屋 博氏

早稲田大学 一丸 節夫氏

早稲田大学 寺野 寿郎氏

早稲田大学 師岡 孝次氏

早稲田大学 岩尾 裕純氏

早稲田大学 春日井 博氏

早稲田大学 横山 定雄氏

早稲田大学 佐山 健治氏

早稲田大学 井出 義光氏

早稲田大学 小林 隆氏

早稲田大学 小堀 巖氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 戸塚 元吉氏

早稲田大学 小林 隆氏

早稲田大学 小堀 巖氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 関田 寛雄氏

早稲田大学 小田 彰夫氏

早稲田大学 山本 達郎氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 海老沢美弘氏

早稲田大学 吉田 裕氏

早稲田大学 山本 達郎氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 祖父江寿男氏

早稲田大学 益子 正巳氏

早稲田大学 吹田 信之氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 井上 宇市氏

早稲田大学 島袋 嘉吉氏

早稲田大学 安本 行雄氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 古銭良一郎氏

早稲田大学 田中 未来氏

早稲田大学 古田 光氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 田沼 肇氏

早稲田大学 齋藤 進六氏

早稲田大学 武田 良三氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 玉虫 文一氏

早稲田大学 齋藤 進六氏

早稲田大学 武田 良三氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 野中 虎雄氏

早稲田大学 齋藤 進六氏

早稲田大学 武田 良三氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 藤田 純一氏

早稲田大学 永井 道雄氏

早稲田大学 塩田庄兵衛氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 純一氏

早稲田大学 前田 陽一氏

早稲田大学 小畑 耕郎氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 関根 隆光氏

早稲田大学 三沢 一氏

早稲田大学 高瀬文四郎氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 光氏

早稲田大学 高久氏

早稲田大学 山田良之助氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 齋藤 真氏

早稲田大学 石黒 浩三氏

早稲田大学 川口 浩氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 高橋忠次郎氏

早稲田大学 利夫氏

早稲田大学 川口 浩氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 齋藤 真氏

早稲田大学 石黒 浩三氏

早稲田大学 川口 浩氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

7月

中央大学 岩尾 裕純氏

早稲田大学 春日井 博氏

早稲田大学 横山 定雄氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 大場 俊助氏

8月

早稲田大学 板垣 与一氏

早稲田大学 一丸 節夫氏

早稲田大学 横山 定雄氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 エネルギー変換懇話会

早稲田大学 大場 俊助氏

早稲田大学 大場 俊助氏

編集後記

「さわやかな」とはセミナー・ハウスを説明するとき川原栄峰先生がいつも使う形容詞。「すっとんきょう」とはオーブン・ハウスの祝辞で山内恭彦先生が「すっとんきょうな飯田君」と私を評されてからはやり出したセミナー語。こぼが受肉した一年の業績。(飯田生)

日韓学生懇談会

依田 精一氏

日本ユネスコ協会連盟

依田 精一氏

伯東幹部研修会

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

芝浦工業大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏

早稲田大学

依田 精一氏